

美術品や文化財を守るための 免震装置

2016年4月に発生した熊本地震における熊本城の倒壊危機に見られるように、大震災時には貴重な美術品や文化財が失われてしまうリスクが潜んでいます。人の命の安全確保や貴重なデータの保護とともに大震災から有形無形の価値ある文化財を守るためにも、免震装置に対する期待が高まっています。

2016年に完了した「なら仏像館」改修工事において、文化財である仏像等を多く保有する奈良国立博物館が免震装置を導入された経緯とその技術に対する期待について大西征爾氏にお聞きしました。

—— 全国に4つある国立博物館では、文化財を守るための免震装置導入が進められているとお聞きしています。そのきっかけと現状を教えてください。また、改修が行われた「なら仏像館」に免震装置を施した理由をお聞かせください。

過去に、阪神・淡路、新潟中越、東日本と大震災が発生しており、地震から文化財を守るという意識が強まっています。近年では九州国立博物館で建物自体を免震化され、また京都国立博物館の平成知新館は重要な展示室を床免震にしました。

今回、「なら仏像館」の内外装の改修予算が付与されました。限られた予算で展示・保管環境の向上を図る必要がある中、展示ケース、展示台については、免震装置を採用することとしました(右上写真参照)。理由としては、建物自体が重要文化財に指



奈良国立博物館 総務課 環境整備係
大西 征爾 氏
Seiji Ohnishi

定されているため、大きな改変を加えることができないからです。日本の貴重な財産を確実に次の世代に受け継ぐことが私どもの役割と考えます。

—— 免震装置導入に当たり、どのような点を重視しましたか。

地震には縦揺れ、横揺れ、長周期振動といった揺れの種類があり、私どもが保有する文化財でもお皿と違い重心が高い仏像では、小刻みな早い横揺れや長周期振動に対応してくれる免震装置は転倒リスクに対して大変有効だと思いました。地震が起きたとしても免震装置の働きにより、文化財が守られると期待しています。

—— 奈良国立博物館における今後の計画や展望を教えてください。

今後も来場者に対して、より良い展示環境を提供させていただくとともに、収蔵品を安全に保管する環境を備える必要があります。それらを実現させるためにも、免震というものは重要な手段の1つであると考えます。



洋風建築設計の「なら仏像館」(旧帝国奈良博物館本館) 西側正面